ツール・ド・のと最終日

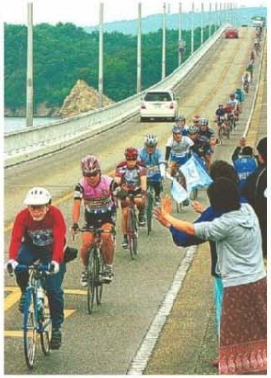
「第21回ツール・ド・のと400能登半島一周サバイバル・サイクル2009」（同実行委、県体協、県自転車競技連盟、北國新聞社主催）は最終日の22日、七尾市を出発した774人が内灘町の県立自転車競技場に到着した。3日間で全長409・6㌔に挑んだ出場者は次々とゴールを果たし、完走証を手に家族や仲間と喜びに浸った。

119・2㌔のコースが設けられたこの日、初日、2日目の晴天とは打って変わって朝から雨に見舞われた。七尾市能登島を出発した一行は滑りやすくなった路面にもひるまず、力強くペダルをこぎ続け、同市の佐々波漁港や氷見市の氷見漁港などを経て能登半島を南下した。

午後2時55分、同競技場に待ち構えた観客からの「お帰りなさい」のコールとともに、先頭集団がゴールを切った。ごぶしを突き上げ、両手を広げるなどして完走の喜びを全身で表現した。閉会式では一日コースに参加した金沢市出身の俳優塩谷瞬さんと、3日間伴走した元プロロードレーサー三船雅彦さんが出場者の力走をたたえた。

大会には1490人が参加、全長409・6㌔のチャンピオンコースでは664人が完走した。

完走証を手に喜びを爆発させる出場者
＝内灘町の県立自転車競技場



沿道からの声援を受け、快走する出場者
＝七尾市の能登島大橋

能登路を疾走する俳優の塩谷さん　＝七尾市内

内灘高自転車部ＯＢの俳優
塩谷さん貫禄の快走
1日コース参加

金沢市出身の俳優塩谷瞬さんが1日コースに参加し、七尾市能登島から内灘町の県立自転車競技場までを先頭で走り抜き、内灘高自転車部ＯＢとしての貫禄を見せた。

塩谷さんはツール・ド・のとに備え、仕事の合間や休日に東京の自宅周辺やＪＲ山手線を1周するコースでトレーニングを重ねてきたという。

この日は高校時代から交流を続けている内灘町の元競輪選手、成田加津利さんが組み立てた変速にまたがり、全参加者を引っ張るかのように一番乗りでゴールした。終了後は完走者と握手を交わし合い、自転車談義に花を咲かせた。

塩谷さんは「内灘に近づくにつれ、高校時代の厳しかった練習を思い出した。坂の走行はつらかったが、来年以降も機会があれば参加したい」と話した。

5人の皆勤賞続く

◇…全21回に出場している「皆勤賞」の5人は今年もチャンピオンコースを走破した。

5人は川端明さん(61)＝内灘町＝、柏木寛朗さん(55)＝群馬県安中市＝、北出裕一さん(42)＝金沢市＝、古川博人さん(46)＝白山市＝、高峯朗さん(50)＝輪島市＝。

今大会は雨による転倒やパンクで苦戦した。

「ベテラン組」の5人だが、「毎年能登を走れるのは元気な証拠や」と互いの健脚をたたえた。

感謝

「第21回ツール・ド・のと400」は3日間の日程を無事終了しました。沿道の皆さまのご声援ならびに関係各位のご協力に深く感謝いたします。

ツール・ド・のと400実行委員会
北國新聞社

410キロ完走 喜び爆発

完走の喜びを分かち合う山本さん夫婦
＝内灘町の県立自転車競技場

妻の待つゴールへ
新婚の山本さん

ル・ド・のと」への参加を決めた。2人は昨年から全国のロードレースに出場しており、「ツール・ド・ちば」を完走した経験もある。今大会も万全で臨んだが、加織さんは七尾市能登島にゴール後、脱水症状で倒れた。

和伸さんは最終日、加織さんの自転車で走行した。

「妻と一緒に走っているつもりで」とこれからの人生の二人三脚を思い描きながら疾走した。加織さんは「能登の青い海を見ながら夫と並んで走り、一生の思い出になった」と今大会を振り返り、「来年も出場します」と力強く語った。

8歳古林君も完走
後続の仲間待ち

◇…チャンピオンコース最年少でサイクリングチーム「ラブミーテンダー」の古林一夢（こばやしひとむ）君(8)＝金沢市南小立野小2年、写真＝はチームメート15人と一緒にゴールを切った。

今年3月からチームに加わり、全国規模の大会でも次々と入賞している古林君は3日間を通して常に先頭集団で走り続けた。

しかし、「ゴールはみんな一緒」というチームのルールに基づき、古林君はゴール目前で後続の仲間を待ち、合流して完走を遂げた。古林君は「とっても楽しかった。また走りたい」と笑顔を振りまいた。

ボランティア、完走証手渡し

◇…プルデンシャル生命保険金沢支社の社員が、ボランティアスタッフとして大会運営を支えた。最終日は社員ら9人が出場者をゴールへ誘導したほか、「お疲れさまでした」と声を掛けて完走証を手渡した＝写真＝。